

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100381	
法人名	株式会社マミーハウス	
事業所名	マミーハウス介護センター	
所在地	桑名市多度町中須59番地	
自己評価作成日	評価結果市町提出日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=2490100381-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=2490100381-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 5 年 2 月 6 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居時はお元気な方も高齢となり車椅子使用の方が9名中6名となりました。転倒の危険のある方の見守りの強化などに心掛けております。コロナの感染流行になってからは外出や面会もままならず認知症の進行が顕著になっていますが、少しでも認知症の進行を防げるように入居者様と会話をしたり手作業を一緒にして季節の飾りつけを行っています。毎日笑って過ごしていただけるように支援させていただいています。必要な医療も速やかに受けれるように主治医と看護師との連携をとり体調面でも安心して過ごしていただけるように支援させていただいています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し離れた肱江川の堤防近くで、車の往来が少なく閑静な住宅地の一角に立地している。現在平均して介護度が高く、転倒の危険性のある利用者達を温かく見守りながら支援している。利用者一人ひとりの思いをできるだけ叶えたいと、家族とも連携をとりながらできるだけ制限を作らず実現させている。偏食気味で食事量の落ちた利用者に家族からお弁当を届けてもらい、元気を取り戻した利用者もある。家族には毎月の請求書に添えて利用者一人ひとりの生活の様子を写した写真入りの便りを送り、感謝の言葉が多く寄せられている。コロナ禍で地域との交流や外出の機会も減っている中、ホーム内で運動会やクリスマス会等のイベントを催し、利用者の喜ぶ顔を目指して支援している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につくところへ掲示しいつも気に留められるようにしております。入居者様とのコミュニケーションを大切にして穏やかに笑顔で過ごしていただけるように支援させていただいています。	『笑顔の絶えない安心できる毎日を』を理念とし、フロアと玄関に掲示している。一人ひとりの思いやりズムを優先し、利用者本位の支援を目指している。利用者は穏やかに生活している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症流行で地域交流は中止しています。短時間ですが面会には、きていただいています。	コロナ禍で地域の祭りなど行事は全て中止になっている。以前はボランティアの参加や地域の高齢者を招いて茶話会を催して交流していたので、機会をみてまた計画したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学は随時実施しています、運営推進会議などで地域の方に認知症の方の介護の実態など報告し質疑応答を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の行事・運営状況の報告をし、入居者の困難事例など問題提起を行い意見交換をしています。	コロナ禍でも、市の職員・包括支援センター・民生委員等の参加で2か月毎に運営推進会議を開催している。同時に身体拘束適正化委員会を開催し、事業所の運営や取り組みについて報告し意見交換の場としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらい事業所の運営状況を報告し、利用者の介護度・状態など伝え困難事例の相談も行っています。	運営推進会議で事業所の運営状況について理解を得ている。議事録は手渡しで、その際に空室の相談や困難事例についてアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで行動制限は行っていません。2か月に1回の身体拘束適正化委員会に向けてのカンファレンスも適時行っています。施設内研修は年2回行っています。	一人ひとりの行動を把握して、その人に合った支援方法を話し合い実践している。ベッドから転落の危険のある人には床に布団を敷き休んでもらったり、立ち上がりがらつく利用者の眠剤を減らすなどの工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の尊厳を重視し虐待防止の研修を行い、職員同士で虐待を見逃さない取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議で桑名市から青年後見人制度のリーフレット配布していただき、必要な方には案内できるように心掛けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学説明を経てご理解頂いた後に重要事項の説明を行い、充分納得していただいた後に契約・同意をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最低でも月1回の訪問があり、ご家族様には日頃の生活の様子や往診の報告を行っています。必要な物などの補充などもお願いしています。	家族には何かあれば連絡を取り、利用者の状況を報告している。本人・家族の要望にはできるだけ沿うようにしており、朝食にパンを希望する人や時間を遅くしてほしい人などにも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を出し管理者の一存で実施できるものは実施し、稟議などの必要なものは管理者会議などで相談しています。	幅広い年代の職員がそれぞれ意見を出しやすい環境づくりを目指している。資格取得にも会社から補助があり、研修会にも出られるよう協力している。管理者は職員がより積極的に考え実践して欲しいと望んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考査があり、職員個々の努力を考慮した内容での昇給が実施されています。資格支援制度もあり、ほぼ介護福祉士を取得しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間の研修計画を作成し実施しています。経験者は資格支援を受け社外研修に参加する機会が設けられています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ZOOMの研修機会が増えてきているので、研修への参加がしやすくなっているので勉強会に参加しています。その後情報の共有をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の入居者は施設に慣れるまで管理者が担当し、一人にしないように支援しています。その後は担当者を決め要望など気づけるような関係づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後1週間くらい、慣れていただけるまでにご家族へも様子の報告をしています。いつでも電話などで連絡できる環境であることを理解していただき安心していただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の困りごとを傾聴しグループホームで出来ること出来ないことを理解いただき、他の介護保険施設との比較の説明も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができることは、職員は見守るよう努めています。利用者が協力してくれたことには感謝の言葉をかけるように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の困りごとや要望は職員のみで解決するのではなくご家族へ相談し協力をお願いしています。日頃の要望を面会時に口添えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お孫さんや友人からの手紙や電話での交流のお手伝いをしています。アルバムなどを見ながら利用者にお話をさせていただいたりしています。	葬儀や法事にもできるだけ出席してもらったり、かつて教員だった利用者と教え子との手紙のやり取りなどでできないところを手伝い支援している。また、多度祭りの写真を飾りみんなで楽しく話し合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が皆で楽しめるようなレクリエーションを行い、出来ないところは職員が協力しています。節分・運動会・クリスマスなど季節の行事を楽しんでいただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから積極的に働きかけは行っていますが、相談などあればできる限りの支援は行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの希望があれば日課や食事内容等可能な限り希望に沿った支援をさせていただきます。	利用者に寄り添って根気よく話を聴き、要望はできる限り叶えるよう支援している。時には家族に協力を依頼することもある。偏食気味な利用者の家族が手作り弁当を週3回程届けてくれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームでの日課はありますが、無理に合わせるのではなく、利用者の要望に沿った日課で暮らしていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や体操・レクなど声掛けはさせていただきますが、参加は自由にしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期は1年、短期は6か月の目標を立てていますが体調の変化があれば計画を見直しています。訪問がないご家族様には計画を郵送し、意見をお聞きし計画作成を行っています。往診後には月1回のカンファレンスを行っています。	月1回の職員会議で全員のカンファレンスを行い、状態変化があり必要があればプランの見直しをしている。その際、医師の意見と家族の要望を丁寧に聴き、利用者の現状に見合った介護計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録と特変時の記録・申し送りノートなどで情報共有し、統一した支援をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の内容・形態などその時に必要な支援に変更しています。身体介護も看護師と相談し必要な支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の好きなこと・好きな所など日々の会話に盛り込み、生活の希望になるように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は1回の往診と、緊急時には夜間往診にも対応してくれています。ご家族様の心配事があれば施設の看護師や主治医から説明させていただいています。	現在1名が精神科の主治医にかかっているが、その他は月1回の協力医の訪問診療を受けている。非常勤の看護師が日常の健康観察をしたり、点滴など主治医の医療行為の補助的な役割を担っているため職員の安心感につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はホーム専従ではないですが、連絡は随時とれるようにしています。職員は看護師に随時相談でき、看護師から主治医へ連絡し受診や往診につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医より情報提供し、入院時は管理者や看護師が病院と連絡をとり情報共有をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療の依存度に則した支援内容の説明を行い、終末期医療のホームでできることできない事を理解していただき、看取りに関するの同意をいただいています。体調の変化に伴い何度も主治医へご家族様の意向を伝え、ご家族の後悔が少ないように支援しています。	入居時や状態変化で食事が摂れなくなった時には、事業所でできることとできないことを説明し同意書を交わしている。協力医と24時間連絡が可能であり、看取り支援ができています。今年度も2名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には慌てないように行う手順など研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の自治会長と災害時の応援などの要請を行なっています。夜間の避難は困難なので水害などは状況を早めに把握し避難が必要な場合は日中に行動できるように考えています。	川が近いこととガスを使用しているため、水害・火災・地震の対策が必要であり、居室の入り口には車いす・シルバーカー利用のカードが掲げている。年に2回消防署通報の避難訓練を実施している。	最近の異常気象で様々な災害が起こりうる。年に2回に限らず、様々な状況を想定して机上訓練も交えながら、より回数多く避難訓練を実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴・更衣時の配慮や、訪室時のノックは必ず行っています。	排泄の失敗の時には、個々の反応に合わせながらより自然に対処している。利用者を否定せず話を合わせて気分よく生活できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方や言葉の理解が困難な方などその方それぞれで意思の疎通の仕方がいろいろなのでその方に適したコミュニケーションの取り方を行っています。筆談やゼスチャーなど。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を優先し、本人の意向を確認しながら日課をすすめています。入浴など。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で衣類を選んでいただいたり、できない方は季節に合ったものをすすめています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは決まっていますが、好き嫌いのある方は変更できるものは変更し、「美味しそう」という言葉ができるように支援しています。	食事は業者から調理済みの料理が届き、ポイルして提供している。みそ汁とご飯は職員が作っている。誕生日や季節のお祝いには、みんなでケーキやタコ焼き器でカステラ作り等をして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調に合わせて主食の量・水分・糖分など変更しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助を行い、自分の歯がある方は毎月1回歯科往診を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、排泄の訴えのない方も早めにトイレ誘導し、失禁を減らしています。夜間紙おむつを使用している方も日中は布パンツでトイレ誘導しています。	布パンツで自立している利用者もあれば、全く尿意の無い利用者もある。排泄パターンを把握して、タイミングを見計らってトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方が多く主治医に下剤の処方してもらっていますが使用は最低限で、水分やヨーグルトなどで自然排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1名30分ぐらいでゆっくり入浴していただいています。1週間に2回から3回入っていただいています。	お風呂は毎日用意し、週に2～3回全員拒否することなくゆっくりと入ってもらっている。立ち上がりの危険がある場合には、無理せず職員2名で対応している。体調により足湯・シャワー浴にすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室での休息は本人の自由にしてありますが、夜間よく眠れるように昼寝以外はフロアで工作などして過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後に服薬などの変更など記録し皆で情報共有しています。副作用など注意点も申し送っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事をするための飾りつけなどを皆で協力しながら毎月行っています。食事やおやつも毎日の楽しみになっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は買い物や人の多い所への外出はしていません。近所への散歩程度の外出になっています。	コロナ禍あることと、介護度が高い利用者が増え遠出はできていないが、近場の川沿いの桜並木や木曾三川公園のチューリップを観に行ったり、お天気のいい日にはゆっくりと歩いている。家族の面会時に一緒に歩く利用者がある。	全員での外出は無理でも、工夫次第で少人数でドライブ等は可能である。安全に配慮して外出の機会を増やし、利用者のいい刺激となるよう期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理をされている方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をかけるお手伝いや手紙の投函など支援をしています。年賀状は皆さまご家族へ出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境作りを行い、1年を通して空調も快適に過ごせるようにしています。毎月季節の飾りつけを皆で制作し壁面に飾っています。フロアも広く車椅子の自走練習をされる方もみえます。	共用空間は広く、食事や作業をするスペースとは別に、テレビの前に大きなソファが置かれ、観葉植物や熱帯魚の水槽等もあり、くつろいだり家族の面会時に利用するスペースがある。利用者が制作した壁飾りや多度祭りの写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さま自分の居場所をつくりその場に慣れ親しんで過ごされ、時々隣の方と談笑されています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族が本人の希望を聞きながらテレビや椅子を置き、ご家族様も面会時に過ごしやすい居室になっています。	エアコン・ベッド・整理箆箆が設備され、利用者が使い慣れた椅子や机を置き、それぞれ個性のあるしつらえとなっている。ベットから転落の危険性のある利用者は、床に布団を敷き休んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は利用者が迷わないように表示し手すりの設置や通路も広くしてあり、車椅子やシルバーカーの通行も安全に出来るようにしてあります。車椅子は自走を促しています。		